

中学校用社会科教科書におけるSDGsの取り扱いに関する研究

菊池 徹*・釜田 聡**

(令和2年8月31日受付；令和2年11月30日受理)

要 旨

本研究は、令和3年度より使用される中学校用社会科教科書の見本本において、Sustainable Development Goals（国連持続可能な開発目標、以下SDGs）の取り扱い箇所について、どのように記述されているかを分類・整理し、その結果を考察したものである。筆者らは、SDGsは今後の学校教育、とりわけ社会科教育において取り扱われるべき内容であると考え、学習指導要領とSDGsの関係や社会科教育実践のESD（持続可能な開発のための教育）における先行研究を整理した上で、K社の中学校用社会科教科書見本本におけるSDGsの取り扱いを調査した。その結果次のことが判明した。地理的分野では、項目「世界の様々な地域」で地球的課題を考える視点としてSDGsが導入された。歴史的分野では、最終章後の学習項目において、現代社会の課題をSDGsの視点で考え、持続可能な未来を拓くにはどうしたらよいかを考えさせる問いが設定された。公民的分野では、分野全体を通して中学校の社会科学学習の集大成として持続可能な社会を創るにはどうしたらよいかの問いが設定された。このようにSDGsを見方・考え方の一つとして扱うことで、社会の課題をSDGsの活用で捉え、持続可能な社会を創るための解決策を考えさせる扱いになっていることが分かった。その一方で、今後の課題としてSDGsの意義や原点を生徒が認識しないと主体的な学習にはならない可能性があること、シティズンシップ教育や社会参画といった関連する社会科教育実践との関係を明らかにすることを指摘した。

KEY WORDS

SDGs, 持続可能な開発目標, 中学校社会科

1 はじめに

1. 1 持続可能な社会とSDGsの関係

2015年9月の国連サミットにおいて、「持続可能な開発のための2030アジェンダ」が採択され、その中にSustainable Development Goals（国連持続可能な開発目標：SDGs）が記載された。SDGsは、2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標である。SDGsは17のゴールと169のターゲットから構成され、発展途上国のみならず、先進国自身も取り組むものであり、大目標として「誰一人取り残さない」が掲げられている。日本では政府が「持続可能な開発目標（SDGs）推進本部」を立ち上げ、政府のみならず自治体、企業、NPO等における取組が進められている⁽¹⁾。

SDGs策定の重要な背景として蟹江（編）（2017）⁽²⁾は、①MDGs¹⁾（ミレニアム開発目標）の反省や教訓、②地球システムの限界、③グローバルガバナンスの3点を指摘している。①はSDGsの前身であるMDGsの未達成課題を引継いだ点と、アジェンダ21の流れを汲む持続可能な開発と統合される形で誕生した点である。②はロックストロームら（2018）⁽³⁾が地球システムの限界（プラネタリー・バウンダリー）を提唱したことに由来する。彼らの提唱したプラネタリー・バウンダリーは、地球環境システムの変動や限界を九つの分野で分かりやすく捉えたものである。そのうち気候変動、生物多様性の減少、生物地球化学的循環の変化、土地利用の変化の4分野については限界を超えた、または超えつつあるとしている⁽⁴⁾。③について蟹江（2017）は、これまでの国際的な枠組みでは「目標とするレベルと実際に各国の政治的意思が極めて大きなギャップがあり、これを埋めるために政策手段をいかにして引き上げるのかについて、切り札は未だ存在していない」⁽⁵⁾と述べている。このグローバルガバナンスの点においてSDGsは、国連や各国の官僚組織によるトップダウン型の作成手法ではなく、理想とする状態から逆算するバックキャストिंगの方法で策定された。その上で、SDGsは具体的な目標・ターゲット・指標から構成された。目標達成に向けた取り組みは、各国の実情に沿った政策と各ステークホルダーに任されている点が前身のMDGsと比較して画期的であると言える。

*上越教育大学（専門職学位課程） **学校教育学系

1. 2 学習指導要領と持続可能な社会

中央教育審議会答申（2016）は「ESD（持続可能な開発のための教育）が次期指導要領改訂の全体において基盤となる理念である」⁽⁶⁾とした。答申を受け告示された中学校学習指導要領の前文には「持続可能な社会の創り手」⁽⁷⁾が記載された。これは、学校教育に持続可能な社会の創り手の育成を求めていることを示している。

このように学習指導要領の前文にSDGsの理念が謳われているが、学校現場においてSDGsの理念が適切に理解され、教育活動が行われるかは今後の課題であると言える。

学校教育と持続可能な社会については、SDGsが示される以前よりユネスコスクールが中心となってESDに取り組んできた。SDGs、ESD両者の扱いについて文部科学省は、「ESDは持続可能な社会づくりの担い手の育成を通じ、SDGsのすべてのゴールの達成に寄与」⁽⁸⁾という指針を出している。この指針から、ESDとSDGsは別物ではなく、今までのESD実践の蓄積を生かしながら、またはESDを継続しながら、SDGs達成に向けた教育活動に取り組むことができる。

1. 3 社会科教育実践と持続可能な社会・SDGs

社会科教育実践においては、SDGsに先行して行われていたESDにおいて数多くの実践が積み上げられている。また、ESD実践を支える理論や原理についても研究が進められてきた。例えば、井田（編）（2017）⁽⁹⁾は地理、歴史、公民、社会科のESD実践についてまとめた。井田はESDについて「社会科の構造においても、社会科の主要な教育として位置付けることができる」⁽¹⁰⁾と述べている。ESDの視点を踏まえた授業構成の理論や原理については、神野（2018）⁽¹¹⁾が次のように指摘している。地理教育は永田（2010）⁽¹²⁾、初等社会科は桑原（2011）⁽¹³⁾によって示されたとした。

一方、SDGsに関する社会科教育実践の先行研究については、CiNii Articles（国立情報学研究所）で検索したところ、SDGsの理念と社会科教育実践の関係性を明確にした教育実践研究は、管見の限りは見当たらなかった。SDGsは国連総会で採択された国際的な合意事項でもあるため、これからの社会を創っていく上で欠くことのできない重要な考え方・指標であると言える。また、SDGsの理念が学習指導要領に埋め込まれていることから、SDGsは今後ますます学校教育や社会科教育で扱われていくべき目標である。

以上のことから、社会科教育とSDGsの関係を明らかにし、今後の社会科教育におけるSDGsに関する授業実践の質的充実のための示唆を得るため、社会科教科書の記述や図版等を分類・整理し、考察する必要があると考えた。そこで、本研究テーマを「中学校用社会科教科書におけるSDGsの取り扱いに関する研究」とした。

2 研究の目的・対象・方法

2. 1 研究の目的

本研究の目的は、中学校社会科教科書におけるSDGsの取り扱いを分類・整理し考察することで、今後の社会科教育におけるSDGsに関する授業実践の質的充実のための示唆を得ることである。

2. 2 研究の対象

本研究ではK社発行教科書の見本本を研究対象とする。文部科学省（2015）⁽¹⁴⁾は、教科書の見本本について「発行者が採択の参考にとすため、次年度に発行する教科書を見本として都道府県教育委員会や採択権者に送付するもの」⁽¹⁵⁾としている。本来は市販本を対象とすべきであるが、まだ市販前のため見本本を研究対象とした。K社選定の理由は、本学が所属する新潟県上越市において、K社の公民的分野教科書が採択されているからである。本学は上越地域²⁾の公立学校と結び付きが強く、本学学生は上越地域で教育実習及び学校支援プロジェクト等の学校実習を実施する。そのため、K社発行の教科書について分類・整理し、考察することは、本学学生だけでなく上越地域の公立学校における教育活動にも貢献し得るものと判断した。

2. 3 研究の方法

最初に、K社の地理・歴史・公民の各分野全頁にわたって「SDGs」及び「持続可能な開発目標」並びに「持続可能な社会」等の持続可能性を示す記述について、分野ごとの取り扱い数、取り扱い箇所を抽出し、分類・整理する。抽出し、分類・整理する視点は、項目・内容・SDGsの取り扱いとした。次に、SDGsに関する記載が教科書内においてどのような文脈で取り扱われているかに着目し、考察する。最後に考察の結果から、今後の社会科教育における

SDGsに関する授業実践の質的充実のための示唆を導くものとする。

3 結果と考察

筆者らはK社3分野の教科書見本本を項目・内容・SDGsの取り扱いの3観点で抽出し、分類・整理のための表を分野ごとに作成した。本章では、分野ごとの結果と考察を述べる。

3.1 地理的分野

表1 地理的分野SDGs取り扱い一覧表

No/P	項目	内容	SDGsの取り扱い
地1 IV	地理の学習を始めるにあたって	③地理的な見方・考え方	小項目「地球的課題とSDGs」 地球的課題がSDGsに示された17の目標の中の何と関係するか、考えていきましょう。 SDGsのロゴが示されている。
地2 76	B世界の様々な地域 ヨーロッパ州	⑤持続可能な社会づくり ▶環境対策と再生可能エネルギー	本文は、環境問題、発電方式、再生可能エネルギーの記述が中心で、持続可能な社会づくりについての記述はなし。
地3 113	B世界の様々な地域 南アメリカ州	③アマゾン川流域の地域開発 ▶進展する開発と変化する環境	小項目「持続可能な開発」 現在、短期的な考えでなく将来の世代のことも考え、環境の保全に配慮した持続可能な開発が望まれています。
地4 117	B世界の様々な地域 南アメリカ州	南アメリカ州の学習を振り返って整理しよう	持続可能な開発の説明
地5 166	C日本の様々な地域 日本の特色と地域区分	⑨輸入に頼る資源・エネルギー ▶資源やエネルギーを取り巻く問題	小項目「限りある資源」 未来の社会も考えた資源の有効活用、環境保全と経済発展を両立させる持続可能な社会の実現が課題となっています。
地6 172	C日本の様々な地域 日本の特色と地域区分	第2章の学習を振り返って整理しよう	持続可能な社会の説明
地7 197	C日本の様々な地域 中国・四国地方	④地域おこしの知恵 ▶過疎対策と地域おこしの工夫や努力	本文右脇のコラム 上勝町は、町が行っているさまざまな、「持続可能なまちづくり」の取り組みが評価を受け、2018年にSDGs未来都市に選定されました。
地8 214	C日本の様々な地域 近畿地方	現代日本の課題を考えよう 近畿地方 林業と持続可能な未来——近畿地方を例に	タイトルに「持続可能な」があるのみで、本文は、森林づくりと林業の現状、伝統の技についての記述がある。
地9 287	用語解説	持続可能な社会	環境破壊をとまなう開発が行われると、今の子どもたちの世代が大人になった時に困るため、そうならない範囲で環境を利用する「持続可能な開発 (Sustainable Development)」が必要とされている。その持続可能な開発が行われるような今後あるべき社会のすがたを「持続可能な社会」とよんでいる。先進国だけでなく、発展途上国においても環境保全と開発のバランスのとれた社会を旨ざすことが求められている。

3.1.1 地理的分野の結果

地理的分野は、表1よりSDGsの取扱いについて次の4点に分類・整理できた。

①本編前の扉絵における、地理的な見方・考え方の項にて、地球的課題としてSDGsとは何かを紹介された。扉絵にSDGsのロゴが掲載され「地球的課題がSDGsに示された17の目標の中の何と関係するか考えていきましょう」と記述があった。

②世界の様々な地域では、ヨーロッパ州と南アメリカ州で取り扱いがあった。項目BにおけるSDGsの取り扱いは、ヨーロッパ州と南アメリカ州に見られた。ヨーロッパ州は環境問題の観点から持続可能な社会について記述があった。南アメリカ州は、アマゾン川流域の開発の観点から持続可能な開発についての記述があった。

③日本の特色と地域区分では、資源・エネルギーの内容において、持続可能な社会の実現が課題であると記された。

④日本の様々な地域では、中国・四国地方と近畿地方で取り扱いがあった。中国・四国地方では持続可能なまちづ

くりが紹介された。近畿地方では、応用編の学習内容「現代日本の課題を考えよう」にて林業と持続可能な未来がテーマとして設定された。

3. 1. 2 地理的分野の考察

前節①, ②は、地球的課題とSDGsの関係性を問う形になっている。地球的課題は、中学校学習指導要領解説社会編⁽¹⁶⁾より項目B「世界の様々な地域」に新たに加えられたものである。地球的課題は、「持続可能な社会づくりを考える上で効果的であるという観点から設定」⁽¹⁷⁾したとされ、「持続可能な開発目標（SDGs）などに示された課題のうちから、（中略）取り上げる」⁽¹⁸⁾と記された。SDGsが学習指導要領解説に記されたことは初めてである。世界の様々な地域の学習における地球的課題の扱いについて分類・整理し、関連するSDGsの目標を表4に示した。学習者あるいは授業者にとって、学習テーマとSDGsの目標を関連付けるのは難しいかもしれないが、地球的課題が示されていることで、学習テーマとSDGsの目標を関連付けやすくなったと言える。

例えば、ヨーロッパ州の学習では環境問題が地球的課題となっている（表4）。ここでのねらいは、環境先進国の多いヨーロッパ州の資源・エネルギー問題についてSDGsと関連付けることや、国家間の協力、環境先進国の取組を日本と比較することが考えられる。

南アメリカ州でのSDGsの取り扱いは、アマゾン川の流域開発による熱帯雨林消失である。南アメリカ州では環境保護の問題と開発問題を両面から考察することができる。つまり、人々が地球環境を維持しながら豊かな生活を送っていくにはどうしたらよいかという、持続可能性の根幹に関わる問題を考えさせられる項目である。

前節③については、「日本の地域的特色と地域区分」の資源・エネルギーの項目において、持続可能な社会の実現が課題であると記された。1年次のヨーロッパ州における資源・エネルギー問題とSDGsの学習が生かすことができる内容と言える。

前節④に関わる項目C「日本の様々な地域」は、日本の諸地域における考察の視点として「地域の持続可能な社会づくりを踏まえた視点に留意すること」⁽¹⁹⁾が内容の取扱いで指摘された。日本の諸地域に関しては、学校の置かれた地域や、担当する授業者によって考察の視点が異なる項目である。近畿地方の学習では、林業をもとに国内の産業、環境問題、働き方、少子高齢化等を考察させる他、海外の林業や日本の木材輸入先を知ることにより、複数の課題が関係する事象をSDGsの目標を活用することによって、学習者が課題を捉えやすくなることが期待できる。

また、前掲⁽¹⁹⁾の視点は「関連する他の事象」⁽²⁰⁾であるため、どの地域においても考察の視点としての設定が可能である。例えば、総務省がSDGs未来都市を選定した自治体もある（表1）。各学校の地域の実状に応じ、SDGsとまちづくりに関連した展開が望まれる。

3. 2 歴史的分野

表2 歴史的分野SDGs取り扱い一覧表

No/P	項目	内容	SDGsの取り扱い
歴1 289	歴史学習の終わりに	歴史を振り返って、未来を構想しよう 現代の課題について、歴史の流れをふまえて考えてみよう	個人や班で、現代社会の課題の一つを選んで考察し、よりよい未来を開くためにはどのようなことが考えられるか、学級で話し合っ構想してみましょう。 現代社会の課題について考える際には、下の「SDGsの17の目標」の考え方も参考になります、としてSDGsのロゴとSDGsの説明を記述している。

3. 2. 1 歴史的分野の結果

歴史的分野は、最終第7章の後に「歴史学習の終わりに」が設定され、この1点でのみSDGsが取り扱われた（表2）。第7章は、SDGsを参考にして現代の課題を考察し、よりよい未来を開くためにはどのようなことが考えられるかを構想することが示された。

3. 2. 2 歴史的分野の考察

歴史的分野において、上述の項目が設定された理由は学習指導要領解説に拠っている。歴史的分野は、市民的分野との関連を持たせることが学習指導要領に示されている⁽²¹⁾からである。近現代に起きた歴史的事象が現代にも影響を与えている例として、産業革命から始まった工業化社会と環境問題を挙げることができる。

3. 3 公民的分野

表3 公民的分野SDGs取り扱い一覧表

No/P	項目	内容	SDGsの取り扱い
公1 I	公民の学習を始めるにあたって	みんなで描く持続可能な未来予想図	<p><10年後の自分や地球>において、私たちはどのようにして持続可能な未来を築くことができるのだろうかという問いを投げ、SDGsが紹介されている。</p> <p><SDGsと「本質的な問い」>において、17の目標は、人間、豊かさ、地球、平和、パートナーシップの五つの要素のいずれかに関係しています。これら17の目標を達成するためには、各目標に関係する持続可能性を妨げる課題について考え続ける必要があります。(中略)「本質的な問い」を公民の学習の中で見つけて、SDGsと関連づけながら自分なりの答えを探し続けていきましょう。</p>
公2 II	公民の学習を始めるにあたって	みんなで描く持続可能な未来予想図	<p><「つながり」への気づき></p> <p>「公民の学習テーマは、現代の社会で起こっているすべての事柄と、私たち自身」、「つながりをもとに現代社会に起こっている問題をとらえ、私個人ができることは何かを考えてみてください」として、「SDGsの17パートナーシップで目標を達成しようと深く関連しています」と記述している。</p> <p><地理、歴史、そして公民へ></p> <p>「公民で学んだ知識や情報を活用し、持続可能な未来のあり方について自分なりに考え、深めていけることを目標に、学習を進めていきましょう」</p>
公3 III	公民で学ぶ内容と学習の見通し	公民の学習全体テーマ	<p>終章：私たちが未来の社会を築く</p> <p>「私たちは、持続可能な未来の社会を築くために、何ができるのだろうか」</p>
公4 18	A 私たちと現代社会	③誰もが活躍できる社会へ ▶進む少子高齢化社会	<p><少子高齢化社会の直面する課題></p> <p>持続可能な社会の実現のためには、少子化対策や外国人労働者の受け入れなどの課題を解決することが必要です。</p>
公5 36	A 私たちと現代社会	第1章全体のテーマについて、次の問いに答えよう	<p><第1章の学習と関連する主なSDGsの項目></p> <p>8, 9, 10, 11, 16</p> <p>「*終章での活動に生かそう」</p>
公6 71	C 私たちと政治	⑪人権侵害のない世界に ▶国際社会における人権の尊重	<p><国境を越える取り組み></p> <p>また各国は、国連で新たな目標を設定する努力も行っています。例えば、2015年の「持続可能な開発目標 (SDGs)」の採択もその一つです。</p>
公7 80	C 私たちと政治	第2章全体のテーマについて、次の問いに答えよう	<p><第2章の学習と関連する主なSDGsの項目></p> <p>①, ②, ③, ④, ⑤, ⑧, ⑨, ⑩, ⑪, ⑬, ⑭, ⑮</p> <p>「*終章での活動に生かそう」</p>
公8 126	C 私たちと政治	第3章全体のテーマについて、次の問いに答えよう	<p><第3章の学習と関連する主なSDGsの項目></p> <p>⑩, ⑪, ⑬ 「*終章での活動に生かそう」</p>
公9 166	B 私たちと経済	第4章全体のテーマについて、次の問いに答えよう	<p><第4章の学習と関連する主なSDGsの項目></p> <p>①, ⑧, ⑨, ⑩, ⑪ 「*終章での活動に生かそう」</p>
公10 190	B 私たちと経済	第5章全体のテーマについて、次の問いに答えよう	<p><第5章の学習と関連する主なSDGsの項目></p> <p>①, ③, ⑥, ⑧, ⑨, ⑩, ⑪, ⑫, ⑭, ⑮</p> <p>「*終章での活動に生かそう」</p>
公11 192	D 私たちと国際社会の諸課題	第6章の学習のはじめに「持続不可能から」「持続可能へ」	<p><さまざまな地球環境問題></p> <p>「地球環境問題に対しては、国によってさまざまな立場から意見の違いがあるようです。上の図を見ながら、以下の問いについて考えよう。」</p> <p>(2) 図中に示された問題は、「持続可能な開発目標 (SDGs) の17の目標のうち何番の内容に該当するか、問題を①~⑮に分類してみよう。」</p> <p><持続可能な社会の実現へ></p> <p>1984年に設置された環境と開発に関する世界委員会から引用し、「これからは、「世代間の公平」、「世代内の公平」、「自然と人間の調和」という三つの視点を意識した、発展・開発の進め方に転換していかなければならないと指摘しました。そしてこれを、持続可能な発展と名づけ、全世界にその実現を強く要請したのです。(中略) 持続可能な社会を実現するためには、そうした対立を解消して、世界の人々が目標に向かって協調して歩みを進める必要があります。」</p>

公12 193	D 私たちと国際社会の 諸課題	第6章の学習のはじめに「持続不可能から」「持続可能へ」	<p><カードゲームで持続可能な社会をみざす体験> カードゲーム「2030 SDGs」を紹介している。</p> <p><学習の見通し> 「協調」や「持続可能性」とは、国際社会においてどのような意義があるのかを、学習を深めていく際の大事な視点として意識していきましょう。」</p>
公13 210	D 私たちと国際社会の 諸課題	②さまざまな価値観の中で ▶世界の文化・宗教をめぐって	<p><国際社会の中の宗教問題> 「多様な生き方や考え方を知り、自分と異なる価値観を受け入れることで初めて、持続可能な社会の実現への第一歩になるのです。」</p>
公14 212	D 私たちと国際社会の 諸課題	③安全をおびやかすもの ▶ 地域間の経済格差	<p><国際社会の取り組み> 「国連は、2015年の総会において、「持続可能な開発目標 (SDGs)」を全会一致で採択しました。「地球上の誰一人として取り残さない」をスローガンに、17の目標を掲げて、先進国も途上国自身も取り組んでいます。」</p>
公15 220	D 私たちと国際社会の 諸課題	⑦「生命の星」を守るために ▶地球環境問題	<p><国際社会の動きとこれから> 「こうした地球環境問題が認識されると、1992年に国連環境開発会議 (地球サミット) が開かれ、持続可能な発展への転換の必要性が各国の間で確認されました。」 欄外で、持続可能な発展についての補足説明</p>
公16 222	D 私たちと国際社会の 諸課題	持続可能性を妨げる、さまざまな課題	<p>「宗教対立・外交 (パレスチナ)」、「経済格差・児童労働・環境破壊 (ガーナ、金の採掘場で働く子どもたち)」、「民族対立・難民 (ロヒンギャ族)」、「環境破壊 (マイクロプラスチック)」、「自然災害の激化 (アメリカのハリケーン)」</p> <p><さらにステップアップ> このページで取り上げられた課題が、SDGs (持続可能な開発目標) の17の目標のうち、何番の内容に該当するか分類してみよう。</p>
公17 224	D 私たちと国際社会の 諸課題	第6章の学習を振り返って整理しよう	<p><次の問いに答えよう> ②世界の発展・開発のあり方を「持続可能な発展」に転換する必要があるという指摘から、1992年に開かれた国際会議を何というか、答えよう。</p>
公18 226	D 私たちと国際社会の 諸課題	第6章全体のテーマについて、次の問いに答えよう	<p><第6章の学習と関連する主なSDGsの項目> ①, ②, ③, ④, ⑤, ⑥, ⑦, ⑧, ⑨, ⑩, ⑪, ⑫, ⑬, ⑭, ⑮, ⑯, ⑰</p> <p><次章の学習へ> 「社会科学学習の総まとめ」として、持続可能な社会とは何か、どうしたら実現できるかをさらに深く考え、自分なりに表現していこう」</p>
公19 228 229	D 私たちと国際社会の 諸課題	①持続可能な未来と私たち ▶持続可能な未来を築いていくために	<p><持続可能な未来とは> 「課題の解決に向けて行動する、持続可能な未来のない手を目ざしていきましょう。」</p> <p><SDGsの意義> 目標、ターゲット、スローガン、すべての国が取り組む普遍的なもの、Dにあたる「開発」(Development) には、経済発展だけでなく、人間的発展も含まれている、物質的な豊かさだけでなく、精神的な豊かさを追求していくことも大切になる。具体例として、「エシカル消費」、フェアトレードを挙げている。</p> <p>本文脇コラム 「文化」、「移民」、「ICT」など、SDGsの17の目標には定められていないものの、重視されるべきテーマもあります。こうした「その他」の目標にも着目して、自分にとっての「18番目の目標を探してみることも大切です。」</p>
公20 230 231	D 私たちと国際社会の 諸課題	②私の提案「自分を変える、 社会を変える」をつくろう ▶見通しをもってつくること	<p>本文脇コラム<様々な課題とSDGsをつなげること> ・提案のテーマを設定する際には、地球の持続可能性を妨げる課題とSDGsの関係を明らかにすることが大切です。 ・選んだ課題について考えていくための視点として、SDGsの①から⑰までの目標がどのように関連し、位置づいているかを確認するとよいでしょう。 ・SDGsの観点からとらえなおしてみましょう。</p> <p><JICA地球広場>の紹介 ・地球の持続可能性を妨げる諸課題とSDGsの関係について、具体的な情報やデータを得ることができます。</p> <p><私の提案をつくる手順> 「持続可能な未来のためにするべき見方や考え方とは何か」、「自分にとっての持続可能な未来とは何か」という「永く続く問い」に対し、自分なりの答えを考えてみよう。</p>

公21 232 233	D 私たちと国際社会の諸課題	提案作品例	「“エシカル”から始まるライフシフト」 「“ヒロシマ”の願いを未来に」 「“知”は“宝”だ」「“豊かさ”ってなんだろう」
公22 234	D 私たちと国際社会の諸課題	③ 持続可能な未来への対話 ▶ 対話によって未来を描こう	・ 前頁までの提案について他者と対話することを書いている。インタビューの質問例に「なぜ、その地球の持続可能性を妨げる課題を選んだのか」、「地球の持続可能性を妨げる課題とSDGsをどのように関連づけたのか」
公23 235	D 私たちと国際社会の諸課題	公民学習のおわりに	・ SDGsの17の目標は国際社会のさまざまな課題に向き合うための道しるべになってくれるでしょう。
公24 264	さくいん	欧文略称	SDGs Sustainable Development Goals
公25 巻末	持続可能な未来をみざす人々	持続可能な未来をみざす人々	写真とSDGs関連が説明されている ・ 感染症の予防のために設けられた安全な水の手洗い場（コンゴ民主共和国）①, ③, ⑥ ・ フェアトレードの生産者団体の人たちとの交流（ネパール）①, ⑤, ⑧ ・ 海岸のごみ清掃（インドネシア）⑫, ⑭ ・ 地震の被災地跡への植樹（宮城県栗原市）⑮ ・ 保護されているコウノトリの放鳥（鳥根県雲南市）⑮ ・ 車いすでも海辺まで行けるビーチマットが敷かれた砂浜（兵庫県神戸市）⑰ ・ 核兵器の廃絶に向けた署名活動（奈良県奈良市）⑱ ・ アフリカへの食糧支援のために行われた田植え（三重県鈴鹿市）⑲, ⑳ ・ JICAで働く人からのメッセージ

3. 3. 1 公民的分野の結果

公民的分野は、次の2点においてSDGsの取り扱いが見られた（表3）。

①各頁及び各章のまとめにおいて、関連するSDGsの目標番号が記された。

②項目D（第6章、終章）における取り扱い数がほとんどであった。終章では、SDGsを活用して様々な社会課題とSDGsをつなげることが示された。

3. 3. 2 公民的分野の考察

まず、公民的分野と学習指導要領の関係について2点取り上げる。1点目は、学習指導要領解説社会編における改訂の要点についてである⁽²²⁾。

オ 持続可能な開発のための取組についても触れる

カ 持続可能な社会の形成することに向けて自分の考えを説明・論述できるようにした

上述のオ、カはいずれも項目D「私たちと国際社会の諸課題」についての記述であり、項目DにおいてSDGsの取り扱いが多い理由と言える。2点目は、現代社会の見方・考え方の一つとして「持続可能性に着目」⁽²³⁾が示されていることである。このように、公民的分野は他の分野と異なり、SDGsの考え方が指導要領解説にも盛り込まれている。

前節①については、学習者及び授業者にとって、学習内容とSDGsの目標が関連付けられるわかりやすいデザインとなっている。さらに、授業者が本時内容について「なぜこのSDGsの目標が示されているのか？」と問うことで、学習内容とSDGsの目標の関連性を思考させることができる。従って、学習者はSDGsを見方・考え方として働かせることで、持続可能性についての概念を深められる。各章のまとめの頁においても、学習内容とSDGsの目標の関連性は最終章に生かすよう記述がある。

前節②に関して、取り扱い内容で評価できる点が2点ある。1点目は、6章の初めで持続不可能性について記述していることである。持続不可能性を考えることは、持続可能性という概念を捉える足場がけとなる。

2点目は、SDGs採択の背景や歴史、原点が扱われていることである。なぜ人々はSDGsを作り採択したのか。原点を知ることは、SDGsの理解を深め、SDGsの意義を認識することにつながる。例えば、教科書p.192（表3）では、「環境と開発に関する世界委員会」からSDGsの原点である世代内の公平と世代間の公平、自然と人間の調和を引用しており、p.220（表3）では1992年に国連環境開発会議が開かれ、持続可能な発展への転換の必要性が各国間で確認されたことを示している。

これらを踏まえ最終章では、SDGsの意義や、様々な社会課題とSDGsをつなげることが示されている。SDGsの目標を独立したものとして扱っているのではなく、それぞれの目標がどのように関連し、位置付けているかを考えさせ

ることは、現代社会の見方・考え方の一つとしての「持続可能性に着目」することに合致している。

4 総合考察

本研究では、社会科教育とSDGsの関係を明らかにし、今後の社会科教育におけるSDGsに関する授業実践の質的充実のための示唆を得るため、K社発行の社会科教科書見本本を対象にしてSDGsの取り扱いを抽出し、分類・整理した上で、それらの結果について考察してきた。分類・整理については、項目、内容、SDGsの取り扱いの視点で分野ごとの表にまとめた。各分野においてSDGsの取り扱いが見られたが、SDGsの取り扱い数と内容から、公民的分野が大きな役割を担っていることが分かった。

各分野の教科書にSDGsが導入されたことにより、様々な社会的事象とSDGsとの関連を捉えやすくなったと言える。例えば、現代社会の課題は、原因や影響を与える先が複雑になっている。そこで、SDGsの見方・考え方を導入することで何が問題なのか、他の関連する問題は何かについて捉えやすくなった。このように、SDGsの見方・考え方を導入することは、事實的知識とSDGsの目標をつなげる思考が働くことで、知識の概念化にもつながる。学習者は、自分たちの学習内容が世界とつながっていることに気付きやすくなり、公民的資質の向上や社会参画へつながることが考えられる。

公民的分野でのSDGsの学習を充実させるためには、1・2年次からSDGsの見方・考え方を育む学習を積み重ねておきたい。地理的分野で示された、世界の様々な地域における地球的課題とSDGs、日本の様々な地域がこれにあたる。歴史的分野におけるSDGsの扱いは最終章のみであるため、これは3年次の学習となる。授業者は、1・2年次の歴史的分野の学習において、学習内容とSDGsのつながりに触れたり、考えさせたりすることを盛り込むことが望ましい。

5 研究のまとめ

5.1 研究の成果

K社発行の令和3年度用教科書の見本本におけるSDGsの取り扱いについて分類・整理、考察した。その結果、地理的分野・歴史的分野・公民的分野の3分野において、SDGsが取り扱われている項目、内容、文脈が明らかになり、今後の社会科教育におけるSDGsに関する授業実践の質的充実のための示唆を得ることができた。多くの取り扱いが見られたのは、公民的分野であった。公民的分野では、学習内容とSDGsの目標とのつながりが明らかになった。公民的分野の項目Dでは、持続可能性をテーマにして自分で調べ、考えをまとめて表現する学習において、SDGsの見方・考え方と活用が前面に出されたデザインとなっていることが分かった。

5.2 今後の課題

第一に、学習者がSDGsの意義を認識形成できる学習過程が必要である。なぜSDGsがあるのか、なぜ世界は協力してSDGsに取り組んでいるのか、自分たちの生活とSDGsの関係はどのようにつながっているかなどを具体的な認識形成をすることで、学びの動機づけがなされ、主体的に学ぼうようになる⁽²⁴⁾。公民的分野では、SDGsの原点に触れる内容があったが、1年生からSDGsの原点や意義に触れる学習が必要であると考えられる。この場合、社会科だけでなく、他教科での実践や総合的な学習の時間における実践、小学校での学習を生かす³⁾ことも考えられる。

第二に、よりよい社会づくりや持続可能な社会づくりの視点としてSDGsの見方・考え方をを用いる場合、シティズンシップ教育、主権者教育、社会参画等の今までの社会科教育実践における先行研究との関連を明らかにすることで、さらなる授業の質的改善が見込まれる。

第三に、教科書において学習内容とSDGsの目標とのつながりが示されたが、SDGsの目標間の関連性を、社会科教育実践の観点から明らかにしていくことについても検討が必要である。複雑な社会課題も目標間の関連を活かすことによって、課題を構造的に把握したり、分かりやすくしたりできるからである。

注

- 1) ミレニアム開発目標の略。2000年9月の国連サミットで採択された、開発分野における国際社会共通の目標。SDGsの前身となり、その内容と成果はSDGsに引き継がれた。
- 2) ここでは、上越市、糸魚川市、妙高市、柏崎市。
- 3) 令和2年発行の小学校社会の教科書を3社見たところ、「持続可能な開発目標」や「SDGs」についての記述があった。

引用及び参考文献

- (1) 外務省ホームページ：「Japan SDGs Action Platform 持続可能な開発目標SDGsとは」
<https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/SDGs/about/index.html>（閲覧日2020年7月27日）
- (2) 蟹江憲史(編)：「持続可能な開発目標とは何か」, ミネルヴァ書房, p.12-16, 2017
- (3) J.ロックストローム・M.クルム／武内和彦・石井菜穂子監修／谷淳也・森秀行他訳：「小さな地球の大きな世界 プラネタリー・バウンダリーと持続可能な開発」, 丸善出版, 2018
- (4) 前掲 (3) p.66
- (5) 前掲 (2) p.15
- (6) 文部科学省・中央教育審議会：「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」, p.243, 2016
https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/_icsFiles/afieldfile/2017/01/10/1380902_0.pdf（閲覧日2020年8月17日）
- (7) 文部科学省：「中学校学習指導要領」, 東洋館出版社, p.19, 2017
- (8) 文部科学省・日本ユネスコ国内委員会：「ユネスコスクールで目指すSDGs 持続可能な開発のための教育」, p.12, 2018
- (9) 井田仁康(編)：「教科教育におけるESDの実践と課題～地理・歴史・公民・社会科～」, 古今書院, 2017
- (10) 前掲 (9) p.3
- (11) 神野幸隆：「持続可能な水産業の在り方や消費者としての関わり方を考える社会科授業構成：ESDの「統合的・協働的な解決アプローチ」に着目して」, 日本社会科教育学会『社会科教育研究No.135』, p.1-13, 2018
- (12) 永田成文：「ESDの視点を導入した地理教育の授業構成：オーストラリアNSW州中等地理を事例として」, 日本社会科教育学会『社会科教育研究No.109』, p.28-40, 2010
- (13) 桑原敏典：「持続可能な社会の形成を目指した社会科教材開発の原理と方法」, 日本社会科教育学会『社会科教育研究No.113』, p.72-83, 2011
- (14) 文部科学省ホームページ：「教科書制度の概要」, 2004
https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/kyoukasho/gaiyou/03062701/007.htm（閲覧日2020年7月27日）
- (15) 前掲 (14)
- (16) 文部科学省：「学習指導要領解説社会編」, 東洋館出版社, 2017
- (17) 前掲 (16) p.47
- (18) 前掲 (16) p.47
- (19) 前掲 (16) p.65
- (20) 前掲 (16) p.69
- (21) 前掲 (16) p.22
- (22) 前掲 (16) p.22
- (23) 前掲 (16) p.21
- (24) 大島純・千代西尾裕司(編)：「主体的対話的で深い学びに導く学習科学ガイドブック」, 北大路書房, p.46, 2019

The study on the handling of SDGs in social studies textbooks for junior high schools

Toru KIKUCHI* · Satoshi KAMADA**

ABSTRACT

In this study, we investigated the writings on SDGs (UN Sustainable Development Goals) using sample textbooks of social studies for junior high schools that have been used since the 3rd year of Reiwa, and considered the results. The authors believe that the SDGs should be dealt with in future school education, especially social studies education, and consider the relationship between the curriculum guidelines and the SDGs and the ESD (Education for Sustainable Development) of social studies education practice. After organizing the previous studies, we investigated the writings on SDGs in the textbooks adopted in the next year. As a result, the following was revealed. In the geographical field, the SDGs were introduced as a viewpoint to consider global issues in the unit “various regions of the world”. In the historical field, in the learning section after the final chapter, questions were set up to think about the issues of modern society based on the SDGs, and how to develop a sustainable future. In the civilian field, the question was asked about how to create a sustainable society as a culmination of social studies learning in junior high school throughout the field. In this way, it was found that the SDGs are treated as one of the ways of thinking, and social issues are grasped by utilizing the SDGs to think of solutions for creating a sustainable society. On the other hand, we pointed out the following two issues. The first point is that students may not be able to learn independently unless the students recognize the significance and origin of the SDGs. The second point is to clarify the relationship with related social studies education practices such as citizenship education and social participation.